

KA 川 MARU
鍛冶丸

第2号

平成26年
7月1日



茶室 松聲庵



茶室からの庭園

茶室「松聲庵」のご案内

茶室「松聲庵」は昭和46年10月、裏千家淡交会高岡支部の創設30周年を記念して、同支部から高岡市に寄贈された（現在は高岡市立博物館が管理）。設計は、当時の支部長在田宗貫氏の手による。外観は切妻造で、前面に深い庇を下ろし、正面の貫人口は二枚引き違い腰障子で、周囲には下地窓、連子窓、風炉先窓がとられ、腰部分にはヒシギ竹が張り回されている。庇の上の扁額「松聲庵」は、裏千家第15代家元千宗室氏（現鷗雲斎千玄室大宗匠）の書による。内部は九畳本勝手下座床、水屋付きの茶室となっており、腰掛待合も備えられている。

なお、茶室「松聲庵」は、個人、団体、グループ等へ貸し出しも行っておりますので、是非、ご利用ください。【1日：4,320円（税込）】



絵でなく地図でもなく —ある資料との出会い—



元高岡市立博物館長(当会副会長) 神保成伍

高岡市立博物館の収蔵資料に昭和7年に描かれた「高岡市街鳥瞰図」があります。作者は京都市出身の吉田初三郎氏、大きさは横327cm、縦71cmのパノラマ絵図です。桜咲く古城公園を中心に市街地を画面中央に置き、右側は富山湾に沿って伏木、新湊、富山、立山と続き日本アルプスへと展開しています。この町に生まれた者にとっては、懐かしく興味がつきません。

鳥の目になって地上を眺め、地形図と絡ませて描く鳥瞰図は、大正期の観光ブームに乗り旅行図や名所絵図として沢山描かれました。なかでも初三郎の名所鳥瞰図は人気が高く、鉄道省指定となり全国鉄道路線も描いています。自ら大正の広重と称し「大正名所図絵社」を創設し後に「大正名所観光社」と改称、国内はもとより中国や朝鮮の都市鳥瞰図も多数手がけています。

私がこの高岡市街鳥瞰図に初めて出合ったのは戦後間もない小学生の頃でした。学校が終わると片原横町にあった市役所の議場へ直行しました。ネット付の卓球台をいち早く確保するためです。議会のない日は自由に使う事ができました。市街図はその議場に掛けてありました。絵のような地図のような不思議な図に卓球も忘れて見とれました。この事はそれっきり忘れてしまいました。高岡市立美術館に職を得て間もない昭和46年、本丸町へ移転した市庁舎の倉庫で偶然見つけ驚きました。埃にまみれあちこち破れがあり廃棄寸前となったあの「高岡市街鳥瞰図」です。永い年月、私との再会を待っていてくれたのでしょうか。

美術館に収蔵し全面補修をしますと碁盤目状に走る町筋が浮びあがり、市役所、学校、神社仏閣などはっきりと読み取れるようになりました。

もしあの時、美術館に勤めていなければ少年の日の思い出も忘れられ、「高岡市街鳥瞰図」も消滅していたかもしれません。その後、博物館資料として移管され収蔵されています。



高岡市街鳥瞰図



昭和7年の
高岡がわかる!

当館収蔵資料である吉田初三郎筆「高岡市街鳥瞰図」の複製印刷物を製作しました。

この鳥瞰図には、昭和7年(1932)の高岡市街地を中心に春の桜咲く古城公園や二上山などの名所が描かれており、当時の高岡の賑わいや街全体をうかがい知ることができます。画面中心部を綿密に描く一方で、画面両端を魚眼レンズのように屈折させ、一つの視点から見えないものまで描きこむ手法を用いています。現在、博物館で販売していますので、ぜひ、ご家庭に一部いかがでしょうか。

1部 500円(税込) A5サイズ6つ折り

高岡市立博物館に親しむ会平成26年度総会

4月22日(火)当館講堂において平成26年度総会・講演会を開催しました。太田会長は、「昨年発足したばかりであるが会員の皆様のご理解・ご協力により各種事業がスムーズに実施ができ、感謝申し上げたい。これからもご協力をお願いしたい。」晒谷館長からは、「親しむ会は、博物館の力強い応援団であり心強く思っている。皆さんと一緒によりよい博物館を目指したい。」との挨拶がありました。

このあと「平成25年度事業報告・収支決算」「平成26年度事業計画(案)収支予算(案)」等の議案を審議し、全て承認されました。各部会の事業計画が提案され、今後、部会で検討していくこととしました。総会後には高岡商工会議所副会頭多田慎一氏を迎え「共に生き 共に創る」と題して講演会を開催しました。



議事進行の太田会長



定期総会風景

講演要旨「共に生き 共に創る」

講師 高岡商工会議所副会頭(当会副会長) 多田 慎一

今年、古希を迎え、アツという間の70年間だった。唯、いつでもどこでも周りの人々からの助けをいただいて、今日という日が迎えられたと感謝している。早くして父親を亡くしたが、厳格に鍛えられたお蔭で、誰から何を言われようと腹が立たない。父の怒りようが凄かったのが幸いし、有難いことだったと後になって気付かされた。

小学校では日記を欠かさず書く事を義務づけられ、それが楽しくて大学卒業まで続けた。社会人になった今でも手帳にびっしり書き込んでおり、いい習慣をつけていただいたことを恩師に感謝している。

竹平政太郎さんの長男さんと小学校から同級で、金屋町のご自宅へよく遊びに行った。政太郎さんにはよく叱られたが、生涯にわたって可愛がってもらった。「徳を積む」「信用を大切にすること」が何より大切だと教えていただいた。また、身心障害児である自分の子どもからは、感性豊かな人間を目指して日々研鑽を積む事を教えられた。

大学では祖父の影響もあり茶道部に入って、その奥深さにひかれ、のめり込んだ。また、幅広い交友関係にも恵まれ、卒業後、父の会社にはいり、23歳で青年会議所(JC)に入会し、「町づくり・人づくり」に取り組んだ。時間の8割は社業である商売に当てたが、残りの時間をほとんどJCの社会開発活動に没頭し1つ1つこなしてきた。

34歳で理事長になり北信越地区の会長にもなり7,000名会員のトップリーダーとなった。JCでは、市民の要望を市当局へ提言したり、自閉的傾向の子供が年々増え続けていた頃「子どもをテレビから守り、テレビに子守をさせない」運動にも取り組んだ。こうした活動を通じて「共に生き 共に創る」という精神が身に付き、人や組織のお世話も進んでやるようになり、人一倍、ふるさと高岡を愛するようになった。

来年、北陸新幹線が開通する。北回り新幹線が話題になった昭和44年から46年の歳月を要したが、近隣社会の人々とコラボを組んで、ともに啓発・啓蒙していかないと、単独では絶対にうまくいかない。基本に忠実に活動を展開するには時間がかかるが、何事をするにも簡単に妙案・妙薬はない。

富山の人からは「高岡には宝がいっぱいあるがに何しとるが」とよく言われる。また、歴史的文化遺産がたくさんあるのに、高岡市民自ら「高岡はなんあかんちゃ」は禁句であり、むしろ「はがやしい」と思う事だ。「はがやしい」という言葉はエネルギーの源であり1歩、1歩前に気持ちをだし、この言葉をかみしめ、ともに手を携え安全・安心で誇りのあるふるさと高岡のまちづくりを進めていきたい。



講演会での多田副会頭

“歩く博物館” 参加の楽しみ

研修部会 橘 規矩雄

昨年9月から今年の6月まで7回開催のうち6回、参加させてもらった(他の1回は、荒天中止と勝手に判断し、欠席)。

最初は、歩くだけでも健康によいだろうからと思っていたのだが、いざ参加してみると、講師の樽谷雅好先生の周到に準備された資料と、先生の柔らかい独特の語り口による説明にすっかりはまりました。と言うのが今の気持ち。

生まれも育ちも高岡でないことを口実に、郷土高岡について知らない(学ばない)で過ごしてきたので、毎回の参加で何う話は、「へえー、そうなんだ」「ふーん、なるほどねえ」「えっ、本当ですか」の繰り返し。

また、参加されている太田会長さんや他の会員諸氏と歩きながらの補足会話やその日のルートについての思い出話を何うのもとても楽しい。ただ、そっちに気をとられて、歩く速度が乱れ迷惑をかけるのは、要注意。

歩きながらの、現地説明なので、座学と違い深い印象と納得が得られる。70歳を過ぎたまだらぼけの頭でも、いくらかは記憶の片隅に残る。例えば第1回コースの定塚第1踏切、第2踏切の存在理由などもそうである。3月の、「御車山巡行路を辿る」では、袋町や梶原淵町等生まれて初めての所を歩くことができた。4月、警女町と延対寺荘、高の宮通りの盛衰なども興味深く伺った。毎回、たった500円でとても楽しく有意義な時間を過ごさせてもらっている事に謝、謝。これからも出来るだけ参加させていただきたいと思っている。



光楽寺の津幡屋と四兵衛の墓



高岡関野神社



大・千保川を歩く！



大手町神明社

実施
結果

歩く博物館

—1万歩ウォークでふるさと再発見—

講師 樽谷 雅好氏 (当会研修部会長)

第4回 3月15日(水) 高岡御車山の巡行路を歩く



第5回 4月23日(水) 関野神社の周辺を歩く



第6回 5月28日(水) 大・千保川の川跡を擦る



第7回 6月25日(水) 古城公園の城郭を探る

講師 高岡観光ボランティアグループ「やまたちばな」



親しむ会 春の呈茶席



会場：高岡市立博物館 茶室 松聲庵
時間：11時～15時
参加料：300円 (お抹茶とお菓子)
開催日：平成26年 4月26日(土) 5月17日(土) 5月31日(土)
5月10日(土) 5月24日(土)

親しむ会ワークショップ部会 (部会長 近藤昭美) では、会員メンバーの方々により春の日差しの中、松聲庵の掛待合で呈茶席5回を開催しました。呈茶席は、高岡古城公園を散歩中の方に



佐藤健人君ピース



抹茶を一服

博物館に寄っていただく、また、来館者の方々が見学後、一服の抹茶サービスで楽しんでいただこうと昨年引き続き開催されたものです。高岡古城公園は、日本100名城に認定されており、県内外のお客様が当館での認証スタンプを求めて来館されます。

とりわけ、県外からのお客様に一服の抹茶を楽しんでいただき、好評を得ました。大阪府阪南市から来館された佐藤陽子さんご家族の健人君(9歳)は、初体験の抹茶に「苦いけどおいしかった」と感想を述べていました。



屋上開放 古城公園の桜満喫

4月11日(金)～13日(日)に、博物館の屋上開放「古城公園展望台」が行われた。普段は開放していない屋上からの景色を眺めてもらう趣旨で、本年度で4回目となる。天候にも恵まれ、来館者3,850人は青空の下で屋上からの観桜や眺望を心ゆくまで満喫した。

開催中、ハーモニカアンサンブル「四番街のマリー」の演奏、高岡観光ボランティアグループ「やまたちばな」による屋上解説、高岡市民会館ホールサポーターの会「パープル」のコーヒー販売もあり、多くの人で賑わった。また、親しむ会ボランティア会員による駐車場整理、屋上開放PRなど多くの人々の協力があり事業がスムーズに運んだ。



屋上は銀座並み



パープルによるコーヒー販売



四番街のマリーによる演奏

高岡市立博物館 収蔵資料検索システム — あなたの家が博物館 —

博物館の収蔵資料情報をインターネットで検索・閲覧できます。



当館では、全収蔵資料(約2,600件)について調査・整理・撮影を進めながら資料個別台帳の整備、資料情報のデジタル化を行っています。これら収蔵資料情報をインターネットで公開し、多くの方々に対して、幅広い利活用を図るものです。全収蔵資料のうち現在445件の資料情報をインターネットで公開していますので、是非ご覧ください。



- アドレス <http://www.da-tmm.jp/search/> (博物館HPトップ画面からも入れます)
- 資料検索方法
 - ①「分類を選んで検索する」(歴史・美術・民俗・考古・写真の5分野)
 - ②「条件を入力して検索する」(キーワードで検索、詳しい条件で検索)



会員の広場

「歴史都市 高岡」山町筋の活性化

会員 塩崎 利平

高岡市は、文部科学省、国土交通省、農林水産省の3省が関わる「歴史まちづくり法」(平成20年11月施行)に基づき、平成23年6月8日に「歴史都市」の認定を受けた。

歴史まちづくり法は、地域固有の歴史的資産を生かした取り組みを支援し、良好な環境(歴史的風致)を維持・向上させ後世に継承するために制定された。市でまとめた「歴史的風致維持向上計画」の最終案によると高岡古城公園と中心市街地周辺地区(山町筋や金屋町等を含む)、国宝瑞龍寺周辺地区、勝興寺と伏木・吉久地区、旧北陸街道沿いの福岡地区など市が誇る歴史的風致地区として、その伝統と文化を守り更に磨きをかける38事業を推進するとのことである。

ところで、私の永く住みなれた山町筋ではハード面で平成13年度より行政のご支援を得て土蔵造りや塀等の復元修理、修景等が実施され10年有余が経過した。

今日では50件余りの工事の完了と、それに加えて平成22・23・24年度の3年間に実施された無電柱化工事も終わり、明治時代の姿まで及ばないにしても、すっきりと整備され、美しく素晴らしい景観となった。お蔭様で観光客も徐々に増加していることは、誠に高岡市にとっては勿論、地元にとっても喜ばしい限りである。

さて、ハード面が立派になれば当然のこと、この上は何としてもこれを生かしてソフト面の充実を図らねばならない。①開町以来、400年余りの間、連綿と継承されてきた高岡の歴史と伝統を誇る毎年5月1日に巡行される「高岡御車山祭り」を始めとして、その他に山町筋で開催されるイベントでは、主屋(おもや)のウィンドウや店頭、部屋等を開放して、②1月には「天神祭り」③3月には「ひな祭り」④8月には「土蔵造りフェスタ」等があり、更に来年4月末には、高岡にとっての宿願であった「御車山会館」もオープンする予定である。これら全ての事業には、当然ながら産学官並びに地域住民の皆様の温かいご支援、ご協力により年々繁華となり、これらのイベントを通じて山町の活性化と伝統・文化を観光客に伝えて楽しんでもらうことが関係者にとって無上の喜びである。北陸新幹線の開業を来年の3月に控え前述の各種イベントについては他都市の見学や調査・研究等いろいろ工夫を重ね、バラエティに富むものにせねばならぬと考えている昨今である。



土蔵造りフェスタの夜景

博物館 人事往来

ご挨拶

主査学芸員 ^{にがたけ} 仁ヶ竹 亮介

平成26年4月に高岡市美術館より異動して(古巣に戻って)参りました。生まれ育った郷土高岡の歴史(古文書)を専門としておりますが、慣れない世界で3年間勉強させて頂きました。それ以前は平成10年4月より、13年間当館におりましたので、ご存じの方もいらっしゃるかと存じます。古文書講座などを通じて皆様に古文書の重要性や面白さなどを伝えていきたいと思っております。今後ともよろしくごお願い申し上げます。

● 会員募集のご案内 ●

高岡市立博物館に親しむ会では、随時会員を募集しています。博物館の活動を支援するほか、高岡の歴史と文化に親しみ、相互に親睦を図る活動を行います。あなたも会員となって、郷土への理解を深め、市民に親しまれる新しい博物館づくりに参加してみませんか。

■年会費

- ・一般会員 1口 1,000円
- ・賛助会員 1口 5,000円

■申込方法

入会申込書に必要事項を記入のうえ、会費を添えて「高岡市立博物館に親しむ会」事務局へお申込みください。



博物館の催し ご案内 (7月~12月)

講座名	内容/講師等	開催日	時間	参加料	備考
■特別展	「夢はこぶ“かがやき” -軌道117年のあゆみ-」	7/26(土)~ 10/13(月)	午前9時~午後5時	無料	
■特別展講演会	講師:郷土史家 樽谷 雅好氏				定員:80名 (当日、先着順)
	「高岡の交通史抄 -古代北陸道から新幹線まで-」	10/11(土)	午後2時~3時30分	300円	
■郷土学習講座(第3講)	講師:本陽寺住職 山本 充彦氏				定員:80名 (当日、先着順)
	「本陽寺と満姫」	9/20(土)	午後2時~3時30分	300円	
■郷土学習講座(第4講)	講師:金沢学院大学教授 見瀬 和雄氏				定員:80名 (当日、先着順)
	「前田利長正室永姫」	11/22(土)	午後2時~3時30分	300円	
■歩く博物館 ~1万歩ウォークでふるさと再発見~					博物館に 親しむ会 主催事業
第8回	万葉線で郷土史を周る	9/10(水)	午前10時~正午	1,000円	
第9回	高岡大仏と高町の路地を調べる	11/ 5(土)	午前10時~正午	500円	
■呈茶の会	「松聲庵 ~博物館で 抹茶を楽しみませんか~」	11/ 8(土)	午前10時~午後3時	400円	(お茶とお菓子)
	茶室見学会		①午前10時30分~ ②午前1時30分~	無料	
	常設展示説明会		①午前11時30分~ ②午後2時30分~	無料	
■おもしろ講座・高岡のみじかい話					
①高岡城の真価	7/10(木)	午後2時~2時40分	無料		仁ヶ竹主査学芸員
②特別展「夢はこぶ“かがやき”」展示解説	7/26(土)				藤井学芸員
③特別展「夢はこぶ“かがやき”」展示解説	8/16(土)				鎌田学芸員補
④特別展「夢はこぶ“かがやき”」展示解説	9/13(土)				仁ヶ竹主査学芸員
⑤地名は楽しい!	10/ 2(木)				晒谷館長
⑥日本美術を世界に紹介・林忠正	12/11(木)				中村学芸員補
⑦加賀藩主の数え方	11/13(木)				仁ヶ竹主査学芸員
■古文書講座「はじめての古文書教室」	講師:主査学芸員 仁ヶ竹亮介				
第1講	9/25(木)	午後2時~3時30分	2,000円	・定員:50名 (定員に なり次第 締め切り)	・9/2(火)から受付 電話、FAX、メールで
第2講	10/16(木)				
第3講	10/30(木)				
第4講	11/20(木)				
第5講	12/ 4(木)				
第6講	12/18(木)				
■企画展	「むかしの人はどんな道具を 使っていたの?」	10/13(月) まで	午前9時~午後5時	無料	

ボランティア募集

高岡市立博物館に親しむ会並びに博物館では各種事業のボランティアを募集しています。

<ボランティア内容>

親しむ会事業では呈茶席のチケット販売、歩く博物館事業、総会での受付、イベント時の駐車場誘導、催事案内など。博物館事業では郷土学習講座の受付などに従事していただけるボランティアを募集中です。申し込みは事務局まで。

